

2018年11月18日(日)朝10:10～  
11月第3共同礼拝式説教

主の降誕前第6・自由交歓会  
日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：神によるアブラハム契約

聖書：ローマ4章9～12節＜口語訳＞

新約聖書237～238頁

ローマ4章9～12節＜新共同訳＞

新約聖書278頁

ローマ4章9～12節＜新改訳第3版＞

新約聖書294～295頁

ローマ4章9～12節＜塚本訳＞

新約聖書467頁

(全節を朗読)

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き  
によって主の弟子たちは、主の名  
による神の罪からの救いを宣べ  
伝えたように、私たちも、福音を  
伝えたい。

序論；

◇**ローマ書**は、**神による人間の罪からの救い**が、  
どのようにもたらされるのかを**使徒パウロ**が  
語っている書簡です。

⇒ケンクレヤのフィベが商用でローマに赴くこと  
を聞いた**パウロ**が、コリントで**ローマ書**を認め、  
彼に託したものとされています。

⇒**パウロ自身**は、コリントから**ローマ**へ伝道に  
行きたかったようですが、諸教会からの献金  
をエルサレム教会に届ける役目を担っていた  
ので、エルサレム帰還を優先し、その後で  
**ローマ**へ伝道旅行をと思ったようです。

⇒**パウロの計画**の通りではありませんでしたが、  
この第3回の伝道旅行が終わった後、最後の  
旅は、捕囚の身ながら**ローマ**へと導かれるの  
です。

◇**ローマ書4章9～12節**は、**ローマ書1章18  
節～3章20節**で、パウロは人間本質的罪を  
問題にしたのを受けて、**神の義**、を扱って後、  
**信仰者アブラハムの神との契約**を扱って  
います。「**神との契約**」のしるしである「**割礼**」  
ある者の父としての「**アブラハム**」です。

本論；

◇本日は、**ローマ書4章9～12節**からの**使信**に心をとめます。

◆**ローマ4章9～12節**；**神との契約**は、**神信仰による義の人の父**であると同時に**割礼ある者の父**である、両者の**父祖アブラハム**が示しているのです。

◇10月14日、**ヨハネ1:1～5**から「**神が偕に**」おられることを実現して下さった「**神であり、神の御子であるイエス・キリスト様**」を見ました。

◇10月21日、**黙示録21章1～8節**から**神が創造された人間の完成の姿**を見ました。

◇10月28日、**黙示録21章22～27節**から罪によって崩れた生活を立て直された**天の神の都における生活の基盤**を見ました。

◇11月4日、**I ペテロ3章20～27節**から**神がノアの箱舟によって示されたのは、「神への服従」**であることを見ました。

◇先週は、**ローマ書4章1～5節**から「**アブラハムによる神信仰の義**」を見ました。

◆割礼のためではない<9~12>

- 「9 それではこの幸福の讚美は、割礼のある者(だけ)についてか、それとも割礼のない者にも及ぶのか。わたし達は(くりかえして)言う、『アブラハムの信仰が義と見なされた』と。
- 10 それではどんな場合に義とみなされたのか。割礼を受けた後か、それとも(まだ)割礼をうけない時か。割礼を受けた時でなく、割礼をうけない時である。
- 11 そしてアブラハムが(あとで)『割礼なる徴を』受けたのは、(まだ)『割礼をうけない』時、信仰によって義とされたことの証拠としてである。これは彼が、(一方ではユダヤ人でない信者、すなわち)割礼なしで信じて義とみなされるすべての人の父になるためであり、
- 12 また(他方ではユダヤ人の信者、すなわち)割礼があるだけでなく、わたし達の父アブラハムが割礼をうけない時(に信じて義と見なされたそ)の信仰の足跡を踏む、(まことの)割礼のある人たちの父になるためであった。」とパウロは、「割礼を信仰によって義とされたことの証拠」(11)として提示します。

◇直前のローマ4:7『幸いである、その不法をゆるされ、その罪をおおわれた人たちは。4:8 幸いな人である、主がその罪を認められない人は。』を受けて、「この幸福の讚美」と表現し、「**アブラハムの信仰の義**」は「**割礼**」の前か、後かを問います。

⇒「**創世記17:1~8**」の「**アブラハムの神との契約**」に基づき、「**創世記17:10**」で、神は、「**割礼**」を受けるように、「**アブラハム**」に命じられます。

⇒「**ローマ書4章9節**」では、「『**アブラハムの信仰が義と見なされた**』」をパウロは強調しています。確かに、「**創世記15:6**」で「『**アブラハムの信仰が義と見なされた**』」ので、「**割礼**」の命令より先の出来事です。

◇「**ローマ書4章10節**」で、「**どんな場合に義とみなされたのか**」と問い、「**割礼をうけない時である。**」と明かに応えています。

⇒「『**アブラハムの信仰が義と見なされた**』」と「**割礼**」を受けた順序は、変えられない事実です。

⇒パウロはユダヤ人として満足しません。

◇「ローマ書4章12節」で、パウロは、「**アブラハム**」が、「**アブラハムによる神信仰の義**」の後、「**割礼**」を受けたのは、「**わたし達の父アブラハムが割礼をうけない時(に信じて義と見なされたそ)**」の**信仰の足跡を踏む**、(まことの)割礼のある人たちの父になるためであった」と、「**アブラハム**」が、「**割礼ある人たちの父になるためであった**」ことを語っています。

⇒**神**は、「**割礼にこだわるユダヤ人**」にも、心を配って下さったと、パウロは語り、「**割礼なき異邦人**」だけが、「**アブラハムによる神との契約**」に与るのでなく、「**割礼あるユダヤ人**」も、与れると宣言します。

⇒**OA師**は、「**割礼**」を良い「**行為**」と見なす人々を前提に、「**信仰による義**」に与る者が、「どの点においても義とされるに値しない者」を**神のあわれみ**が、「**アブラハムの神信仰**」を「**義**」と認めて下さったことを強調されます。

⇒「**アブラハム**」は、「**神信仰**」を「**義**」と認められた後も、難を逃れるために、妻を「**自分の妹**」と偽っているからです。「**神服従**」が大事です。

## 結論；

- ◇1:17節；神は、その信仰を義とされます。
- ◇神の「義」は、神の前にその罪を告白した罪人に与えられます。それが、神の恵みです。
- ◇ローマ書は、神による人間の罪からの救いが、どのようにもたらされるのかを使徒パウロが語っている書簡です。
- ◇ローマ書4:1～5は、「アブラハムの行い」ではなく、「神信仰が神の義」と神によって認められたことを語っています。
- ◇ローマ書4章9～12節は、「割礼」を神が、「神との契約」に先立って、命じられているから疑問が生じるのです。
- ⇒「神の恵み」は、「神との契約のしるし」である「割礼」を受けている者にも等しく注がれるため、敢えて、「神との契約」の当事者である「アブラハムに割礼を命じ」て、「割礼なき者」と「割礼ある者」の「父・父祖」とされたのです。
- ⇒「神の恵み」の中にあることが大事なのです。自分自身を誇らず、また逆に自己卑下せず、常に「主を崇める」者でありたい。
- ⇒「誇る者は、主を誇れ」です。I コリント1:31